

祝 ベトナム ドンズー日本語学校創立 20 周年

ドンズー日本語学校設立まで

グエン ドク ホエ校長





ABK 同窓生・魏慶鼎先生〔中国、 北京大学教授〕ご夫妻、30年振りに来館



ABK 同窓生・魏慶鼎（Wei Qing Ding）先生〔中国、北京大学教授、1979年～82年 ABK 在館。工学博士（東京大学）〕が、夫人（朱慧真さん、北京大学準教授）と共に、30年振りに ABK を来訪され、小木管理理事長はじめ、顔なじみの古いスタッフと旧交をあたため、新しい教職員たちと親しく懇談しました。



月刊 アジアの友

2011年6-7月号 第491号

目次

巻頭

- 2 祝 ベトナム ドンズー日本語学校創立 20 周年
- 3 ・ ドンズー日本語学校設立まで グエン ドク ホエ校長
- 7 ・ ドンズー留学プログラムの道程 グエン ティー ゴック フーン留学生担当
- 10 ・ ドンズー日本語学校訪問記 町田恵子 (ABK 日本語コース教務主任)

14 先輩こんにちは！

アマリア マリックさん ～インドネシア

震災関連

- 18 大震災 その時留学エージェントは
UNIPLAN 留日センター (台湾) 維維さんに聞く
- 22 アジア人財資金構想 東日本大震災特設サイトより
「被災した留学生・留学生OBの声」 アハマド ズフリさん
- 23 東日本大震災 関係者からのお見舞いの言葉
- 25 知友会通信 奨学金情報、イベント情報
- 26 MEMBERS ご入会・ご寄付のご報告
- 27 募金途中報告
ABK 同窓生募金 (2011 年 5 月 31 日現在)
・ 募金に関するメール

＜表紙写真＞ ドンズー日本語学校 20 周年記念式典より。留学
プログラムを卒業し、日本に留学する学生たち



ベトナム

ドンズー日本語学校創立 20 周年

ベトナム・ホーチミンのドンズー日本語学校が今年創立 20 周年を迎え、去る 3 月 12 日、内外から多くの関係者・支援者がかけつけ記念式典が催された。

ベトナムの改革開放政策により外国人旅行者が急増し出した 1991 年、ホーチミン市内の建物に 20 名程が入る一室を借りてドンズー日本語学校はスタートした。その 4 年後には日本人支援者の協力もあり、現在の本校となる 5 階建ての学校をホー・バン・フエに開校。2011 年現在、この本校以外に、ホーチミン市内 4 校、ダナン市 1 校、計 5 つの分校を展開している。学生数は当初の数十名から、年を追うごとに数百名、数千名と推移し、ピーク時は 5000 名にも達した。ここ数年、ライバル校の出現や他言語の人気などもあり生徒数は伸び悩んでいるものの、20 年間でおよそ 51000 人もの日本語学習者を生み出しており、ベトナムの日本語教育と日本理解促進における功績は計り知れない。ドンズー日本語学校で 2 年間集中して日本語を勉強した結果、日本語能力試験 N1 (旧 1 級) に合格する学生も何名か存在するように、ドンズー日本語学校卒業生の日本語能力の高さは、日系企業からも厚い信頼を得ている。

そのドンズー日本語学校の特徴の一つが日本留学プログラムである。この留学プログラムの特徴は、生徒のほとんどが貧しい家庭出身の学生だということ。学生の選考はグエン・ドク・ホエ校長とスタッフが毎年 7 月に国内を回り行う。ホエ校長は「この作業が大変重要であり、時間と体力が必要だが、良い学生を選ぶためには、手を抜くことはできない」と話す。こうして選ばれた学生はドンズー日本語学校に集められ、日本語の学習、日本の教科書を使った高校一般科目の復習、大学受験対策として読書、さらに留学のための精神面の訓練を行う。そして、ドンズーの要求するレベルに達し、留学生としての条件を全てクリアした者のみ、日本へ留学させている。

来日後は全国の日本語学校で日本語と大学受験のための勉強を行うが、学業とともに重要なのが学費、生活費をアルバイトにより自身で賄わなければならないところ。そのため学生たちは体力的・精神的に大変な生活を送ることになるが、そんな厳しい日本生活の中でもドンズーのほとんどの学生は日本の国公立大学に合格し、入学後は奨学金を受給している。ホエ校長は日本での厳しい経験が必ず将来に生きるものと信じている。

「若い時の苦労は、将来の栄養となります。日本の社会に、自分の足でしっかりと立ち、自分の知恵で生き抜き、労働の価値、お金の価値など、いろいろなことを体で学びます。これらのことは机上の学習だけで理解できることではありません。日本へ留学して、苦労して学ぶことで初めて理解できることなのです」

学位取得は当然のこと、加えて厳しい生活を経験しているため、強靱なサバイバル力が身に付いている、という点が他の留学生とは異なるドンズー留学生の特徴なのである。



現在の本校

43D/46 Ho Van Hue, P.9, Q.
Phu Nhuan, Ho Chi Minh



ベトナム

ドンズー日本語学校創立 20 周年

ドンズー日本語学校設立まで グエン ドク ホエ 校長

グエン ドク ホエ (Mr. Nguyen Duc Hoe) さんがドンズー日本語学校設立に至った大きな理由に日本留学時代の様々な経験がある。祖国のために学者になろうと日本に旅立ったホエさんが、なぜ日本語学校を設立し、留学生派遣に全身全霊を傾けるにいたったのか。日本留学時代、そして学校設立までをホエさんに振返っていただいた。

ドンズー日本語学校校長のグエン ド

ク ホエさんが日本に留学したのは

1959年のこと。貧しい家庭に

育ちながらも学業に秀でて

いたホエさんは、日本政

府の奨学金を得て京都大

学に留学することにな

る。ベトナム国民が尊

敬するファン ボイ チャ

ウ氏の東遊運動*に共感

を覚えていたホエさん

は、「国のために学び、学

者になって帰国後は国のた

めに尽くす」という強い志を

持って日本に向かった。

留学先となった京都大学では「もっと

も難しい学問だったから」という理由で原子

物理学を専攻した。そして学部卒業後は博士

号取得のため1964年4月東京大学に進学、

宿舎は大学からほど近いABKの新星学寮に入

寮した。学者を目指すホエさんにとって、こ

こまでは絵に描いたような留学生活と言えた

のかもしれない。しかしこの東京での生活が、

ホエさんの人生を変えることになる。

東京でホエさんを驚かせたの

は、都心の高層ビルでもき

らびやかなネオン街でも

なく、日本語をマスター

できず、学業に挫折

してパチンコなどの

ギャンブルに明け暮

れるベトナム人留學

生たちだった。

「親がたくさんのお

金をつぎ込んで、期待

をして日本に送り出した

のに、もったいない。しっ

かり学べば国家の貴重な人材に

なるはず」

そう考えたホエさんは、彼らベトナム人留學

生を集め、私塾を開設することになる。上京し

てまだ間も無い、1964年5月のことだった。

昼間は大学に通い、夕方5時から9時まで

はボランティアで日本語や漢字、そして進学

に必要な科目を教える。1クラスでスタートし





長岡大、新潟大に留学中の学生たちと

たこの私塾は徐々に生徒が増え、翌年には3クラスになった。ホエさん1人では手が回らなくなると、ベトナムの友人たちがボランティアで先生を買って出てくれた。

この私塾での献身的な指導は若いベトナム人留学生たちの心を捉え、ホエさんと生活を共にしたいと申し出る者も現れた。そこでホエさんは、自分が生活をしていた「新星学寮」をモデルにベトナム人のための寮を作ることの思い付く。そして、東京・北区に10年以上空き家になっている古い民家を見つけ、新星学寮の日本人学生S氏と共に清掃・改造してベトナム人留学生寮「東遊学舎」を1967年に設立した。ホエさんは自らの奨学金を全てこの寮のためにつぎ込んだという。そして、第一期の学生3人が入居して、ホエさんと新星学寮からのS氏、N氏を合わせた6人の寮生活がスタートした。

東京に出てくるまでは勉強一筋で内向的、臆病だったというホエさんが、ここまで積極的、行動的になれたのには新星学寮に入り、寮の創設者である穂積五一氏をはじめ、様々な社会活動に関わる個性的な学生たちに触れたことが大きかったという。

「寮に入って、それまでは学問一筋で目に入らなかった一般の留学生のことに気がついたんです。初めてベトナム人留学生会にも参加して積極的に活動

に関わりました。そういう意味で新星学寮は私の人生を狂わせたんです（笑）」

さらに日本留学以来、自分のような貧しいベトナム人学生を何とか日本に留学させることはできないかと考えていたホエさんは、東遊学舎を設立する目的の一つに、ベトナムから学生を日本に留学させることを位置付けたもののお金がない。奨学金で留学していたホエさんはアルバイトをしたことがなかったが、その時アルバイトの存在を知り、アルバイトをすれば奨学金がなくても日本で学べるのではないかと考える。そしてそれがどのくらい大変なのか、収入はどのくらいになるのかということを知るために、実際にアルバイトに挑戦してみた。

ビルの清掃、食堂でのアルバイトに始まり、できればより意味のあるものをと印刷所でのアルバイトを経験し、「これならばお金が無く

※東遊運動(ドンズー運動)・・・1883年以来、フランスの保護国であったベトナムでは日露戦争に刺激され、1904年頃、ファン・ボイ・チャウ(潘佩珠)らによって反仏運動の結社が組織された。1905年、チャウは日本に渡って武器援助を仰ごうとしたが、武装蜂起の考え方を批判され、代わって人材育成の重要性を説かれた。チャウはその忠告を聞き入れ、ベトナムの青年らに日本への留学を呼び掛けた。官僚試験に合格していた青年ら200人以上が日本に留学し、この運動は「東遊運動」と呼ばれるようになった。東遊運動はフランス植民地支配からの脱却を目指し、チャウは独立運動の若い指導者を育てよう同志を募って民衆からも資金を集めた。優れた青年らはこうして日本へ送られた。また、チャウ自身も日本に渡って奔走し、その人生を民族独立運動に捧げた。

ても留学できる」、そんな確信を抱いた。これがその後のドンズー留学生の雛型となるわけだが、実際にドンズー留學生が日本を訪れるのは25年先の1992年まで待たなければならない。

東遊学舎での共同生活は（経済面を除けば）順調で楽しいものだったが、家主が家を改築することになり、開設から1年余りで移転を余儀なくされる。その後、新宿に東遊学舎を移したホエさんは、さらに高田馬場にも分舎をつくり、多いときには三十数名のベトナム人留學生が生活を共にしていた。

そして1973年には第一期生が晴れて卒業を迎えることになる。一つの目標を達成したホエさんは、一期生たちを呼んでこれからの心構えについて話をした。

「私はいずれ国に帰らないといけな。これまで君たちのために全身全霊でやってきたが、これからは君たちが、私に代わり後輩のためにがんばってほしい」

ホエさんを慕い、ホエさんとの生活を自ら希望した第一期生たち。ホエさんの背中を見ていれば答えは一つしかないはずなのだが、現実とはそうではなかった。

「彼らは話を聞いて逃げ出してしまいまし

た。私は本当にながかりした。6年間、自分は何をしてきたのかと・・・」

ショックで憔悴したホエさんは東遊学舎から離れ、東京郊外の畑の真ん中にある一軒家に身を寄せ「なぜこういうことになったのか」三日三晩考え続け、一つの結論を出す。

「私は種を選ばずに実を育てたんです。しかしその種はいい種じゃないから、いくらがんばって育てても良い実は育たない」

ホエさんはもう一度一からやり直すため、ベトナムに帰国して優秀な種を探すことを決意する。そしてそのための一つの準備として、1973年7月、賛同者と共に「兄弟奨学会」（現在の「青葉奨学会」）は、これを引継いでいる）を設立する。奨学会は特別な宣伝をしなかったにも関わらず、カソリック教会の関係者の協力もあり、わずか数ヶ月で日本全国に広まり、さらにその情報は広く欧米のベトナム人コミュニティにも知られるようになる。その結果、設立から1年足らずの間に二百人以上の学生の奨学金が集まった。

ホエさんは1974年1月、およそ15年を過ごした日本を離れ帰国の途に就いた。帰国後は公務員の職に就いていたが、日曜日は奨学金を渡すため、奨学金の管理をお願いしているホーチミン市内の小中学校を訪問し、推薦された子供たちに会って時間を過ごした。



来日したてのドンズー留學生と出迎えた先輩たち

その後ドンズー日本語学校設立まで17年間、ホエさんはベトナムで、仕事の上では紆余曲折を経て、4つ目の仕事ホーチミン市の輸出加工区を作る仕事に乞われ、そこの長に就いた。〔ベトナム戦争が終結し南北統一が成った後、全く音信の途絶えていたホエさんから、ABKの田井重治さん（当時アジア学生文化協会理事長）のところに日本人宛てとしては初

めての手紙が届き、ホエさんが無事であることが分かったのが、1990年だった。そして、1991年、ABKの招聘によって来日したホエさんは、約1ヶ月間、日本全国を見てまわる機会を得たのである。【編集部】

17年の空白を経て再来日したホエさんは、更に発展した日本と、日本で学ぶ数多くの中国人留学生の姿を目にする。帰国後の報告会で、関係者にこのことを話したホエさんだったが、文部大臣がたまたまこの報告会に参加していたことで話は急展開する。大臣はホエさんに「中国の青年たちのようにベトナムの青年たちも日本に留学できますか」と尋ねた。

「私ができますと答えたら、大臣は自分が中央政府に話すからホーチミン市の権限で留学生を日本に送りなさい。これは国家が望んでいることだからと言ったんです。その場でドンズー日本語学校が政府に許可されたんです(笑)」

ホエさんはこの後すぐ加工区総裁の仕事を辞し、わずか2週間後には学校を開校する。

優秀な青年を振り分けて、選ばれた学生に日本語、高校の基礎教科の復習、それに留学に必要な精神面の準備をさせ日本へ送る。ホエさんの理想を実現するドンズー日本語学校は、1991年4月、ホーチミン市に誕生した。

ホエさんは、それまでの人生を「全ては「縁」で成り立っている」と語る。

「日本留学や政府の仕事の経験が無ければ今の学校はありえません。信用があって初めて出来ることがある。信用があるから留学生を海外に送れる。普通の人が思いついてやろうとしても出来ないんです」

ホエさんの熱意が多くの人々の心を動かし誕生したドンズー日本語学校。設立初年度から79人の学生が集まり順風満帆な船出を飾っ



スタート時のドンズー日本語学校

たものの、日本に留学生を、という段階になるとお金がないためなかなか話が進まない。来日後アルバイトをして授業料と生活費を稼ぎ出すというホエさんのアイデアは、評価こそされ実際の受入れとなるとどの日本語学校も及び腰になってしまう。「学生が本当に2年間過酷な生活に耐えられるのか」「途中で逃げてしまうのではないか」。ホエさんは熱意を持って各地の日本語学校を回ったが、相手にしてくれる学校は皆無だった。

そんなホエさんに救いの手を差し伸べたのはやはり新星学寮出身で当時ベトナムのためになる事業を積極的に展開していたA氏だった。A氏は「これを使ってください」と100万円をホエさんに手渡し背中を押してくれたという。

「彼がいなければ、このプログラムはこの時スタートを切れず、現在の1000人を超えるドンズー留学生は存在しなかったかもしれません。今のドンズーがあるのは彼のおかげだと思っています」

ホエさんはその100万円を日本語学校に振り込み日本語学校の受入れ許可を得る。こうして、ドンズー日本語学校が開講して2年目の1992年に、同校初の日本留学生3人が日本に向けて旅立って行った。



ベトナム

ドンズー日本語学校創立 20 周年

グエン ティー ゴック フーン留学生担当

ドンズー留学プログラムの道程



ドンズー日本語学校が 1991 年にできてから今年で創立 20 周年を迎えます。ドンズー留学プログラムも始まってから同じ時間ぐらいになります。1964 年からグエン ドク ホエ校長はこのプログラムに取り組みましたが、都合により途中中止となりましたが、ドンズー日本語学校創立と同時に、新プログラムとして正式に再開しました。

ドンズー留学プログラムの目的は日本の先端技術・合理的生産手段を勉強したり、ベトナム・日本文化の交流をして、帰国後祖国の工業化・現代化事業に貢献するベトナム学生

を育てることです。つまり国家のための人材を育成することです。

このプログラムの対象者は、ベトナム各地から集め、高等学校を卒業したばかりの学生、大学を卒業したばかりの学習意欲が強く、健康でまじめで優秀な学生です。特に注目する点は、貧しくても成績が優秀で、大きな夢を持っていることです。

留学生は日本へ行ってから大学へ進学するために、ドンズー日本語学校で日本語だけで

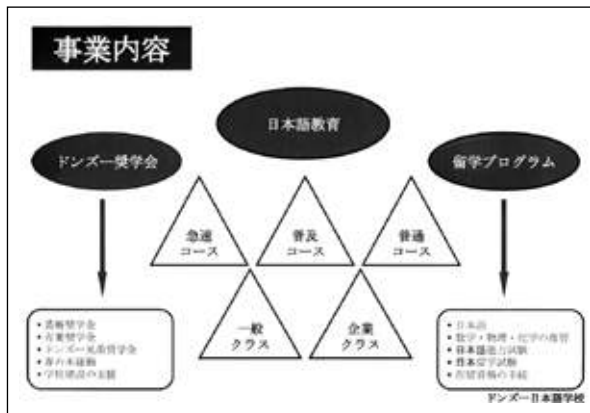
なく、数学・物理・化学・英語などを学んでいます。また、日本のような現代的な工業国での学習環境に耐えられるように我慢強さ・根気良さ・体力をつける訓練もしています。そして日本に留学する前にいろいろな知識を身につけておかねばなりません。

留学生は一日 12 時間授業を受け、生活も厳しく管理されていますが、ドンズー日本語

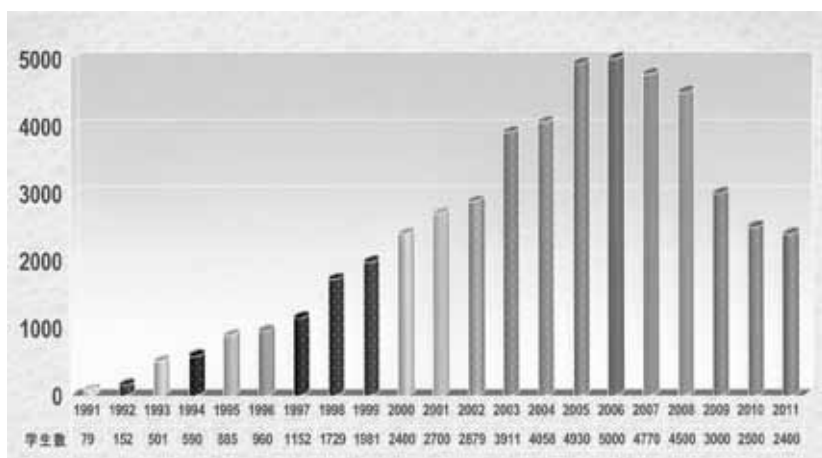
学校の留学プログラムへの希望者は年々増え、日本へ送る留学生の数も増えています。最初は 4～6 名しかいませんでしたが、年月が経つにつれて徐々に増え、2004 年には 33 名、2005 年には 77

名に増え、2006 年には 133 名に急増しました。それから現在まで毎年平均 150 名くらいを日本へ送り出しています。学生数を今より増やすことも可能ですが、当校の教育の質を維持するため、150 名ぐらいに抑えています。2010 年末までに当校から日本へ留学した学生数は 1049 名になり、今年 4 月の学生数入ると 1124 名になります。

ドンズー日本語学校の留学プログラムは、



ドンズー日本語学校 学生数の推移



を取らずにお金を貸します。まじめで優秀な学生は、学校が応援します。

日本に到着すると、日本でドンズー日本語学校を卒業した留学生が待っています。空港までの出迎え、学校

学生を選考をすることから始まります。ドンズー日本語学校の育成システムは、当校での学習はもちろん、日本での学習、帰国後の仕事まで面倒を見ます。

そのため、優秀な学生を選考できるように、各県・各市の奨学会によって一時審査してもらいます。そして、当校にふさわしい学生を選考するため、校長のホエが、毎年一回北から南までの全国を回ります。

数学・物理・科学などの試験の他に、一人ずつ面接をして選びます。従って、合格した学生の性格・家族状況を事前に知ることができます。

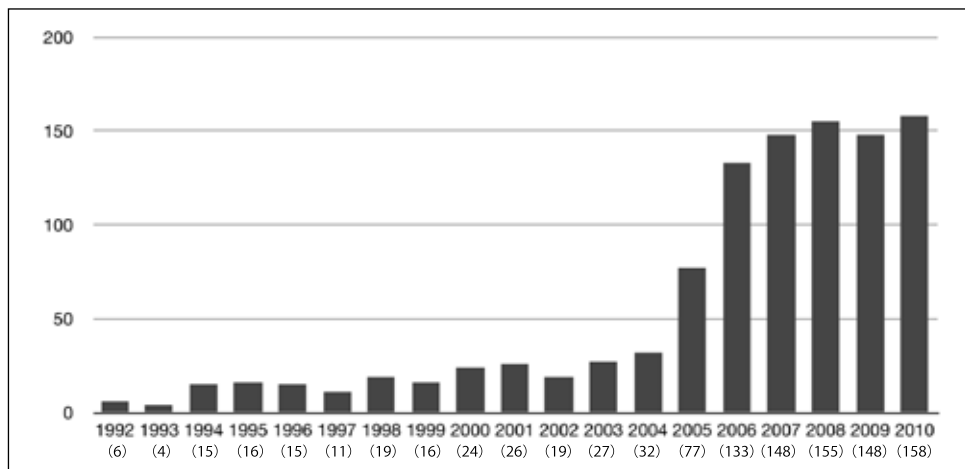
学校に入る前は、ほとんど日本語を勉強したことがない学生ばかりですが、ドンズーで学ぶことにより日本留学前には日本語で日常会話、高等学校の教科書を読めるようになります。また日本へ行った後、学生が日本社会に早く溶け込めるように、ドンズー日本語学校の授業プログラムは時代の流れに応じて変わります。

貧しくても、大きな夢を持っている優秀な学生には、勉強して留学できるように、担保

での学習、日常生活などを手伝います。積極的に学習するように、日本全国でのドンズー留学生に定期テストを行います。日本留学後帰国し、いろいろな分野で全国の企業・会社で働く学生のほか、自分の会社を作る学生も多くいます。また、今後日本から帰国する学生が多くなっていくため、帰国した学生を集めて新しい会社を起こすシステムを作っています。そうすることで、学生が日本で勉強した知識を活かして、国家に貢献することができるというのが、私たちの留学プログラムの考えです。

ホーチミン市には近頃世界留学紹介センターが数多く出来たため、世界各国へ留学することが簡単になり、お金を持っていれば留学できるようになりました。今は難しいですが、近い将来日本へ留学することも簡単になると思います。現在の留学生業界は、競争が激しく、各留学紹介会社は留学プログラムについて、達成できるかどうかかわからない、いい加減なスローガンを掲げています。ドンズー日本語学校の良い点は、守れない目標は立てないことです。成績が良くない学生や、日本

ドンズー留学生数の推移



へ留学するふりをして不法就労する学生を防ぐため、ドンズー日本語学校は決して周りに影響されないで、自分の信念を持って厳しく学生を選考しています。従って、学生たちは留学するために、そして国のために貢献するように頑張ります。そのため、留学コースの学生には、常に愛国心・民族自尊心についての教育もしています。

このように、当校は単に日本語を教えるだけの学校ではありません。そのため、大きな夢を持つ素直な学生を教えるため、若くて熱心で優秀な教員が必要です。私たちドンズー日本語学校は、教員たちに誇りを持っています。学生が良い成績を残すことが、私たち教員にとって、何よりも尊い報酬です。ドンズー日本語学校の留学生は、とても光栄なことに、日本の大学から良い評価をいただいております。毎年ベトナムで行われる留学フェアが終わった後、ドンズー日本語学校では、日本各地の大学から訪問を受け、説明会をしています。学生が、日本で良い評価をいただいていることは、私たちの誇りであり、励みになります。今後も、今まで同様の

評価が得られるように頑張っていきたいと思っています。

ドンズー日本語学校の留学生として、一番大切なことは、日本のどこの学校に通っていても、一緒に勉強して、お互いを助け合うことです。先輩が後輩の世話をするのは、文章にはありませんが、義務です。親が子供を育て、兄が弟の面倒を見るのは当然の義務です。それと、同じです。弟の悲しみは家族の悲しみ、学生の悲しみは、ドンズー学校みんなの悲しみです。日本での成功は、学校みんなの希望であり、喜びです。

今、当校の留学生の成績が、日本から評価されているのは、ホエ校長の長年の努力のおかげだと思います。ドンズー学校ができてから二十年間という道のりは、人間の一生に比べれば短いですが、学校の歴史としては、かなり長いものです。しかし、この20年間を振り返ってみると、達成できたことはまだあまり多くないと思います。これからも、30周年、40周年を目指して、家族みんなで頑張らなければならないと思います。



ベトナム
ドンズー日本語学校創立 20 周年

ドンズー日本語学校訪問記

町田恵子

アジア学生文化協会（ABK）日本語コース教務主任



このたび、ホーチミンにあるドンズー日本語学校の20周年記念にあわせて、ベトナムを訪問する機会を得ました。実際に目で見、耳で聞いてきたドンズーの様子、そしてそこから私が感じたものを、皆さんに少しでもお伝えできればと思います。短期間のことであり、筆力にも自信がないため、誤解や不備もあるかと思いますがその点はお許してください。

1. 学生の礼儀正しさ、ホエ先生の理想

ホーバンフエのドンズー本校の玄関先に立つと、バイクが所狭しと並んでいた。雑然としているようでそれなりに秩序が保たれている、その並べ方が、ABKの小木曾校長の言う『ベトナム的合理主義』に合致しているのだろう。

玄関脇には新宿日本語学校とさくら日本語学校からのお祝いの花環が並べられ、玄関ホール両脇もたくさんの花で彩られて、華やいだお祝いムードを醸し出していた。

ABKからの花環は、贈っていないのだからもちろんない。お祝いの花を贈るべきだったと、反省。「飾らない」のがABKと言って、気が回らないのを言い訳してすましてはいけないと思った。

玄関に入ると、行き交う学生さんたちがきちんと一度立ち止まり、頭を下げて挨拶しながら通り過ぎていく。その姿に新鮮な驚きを

感じた。なぜ「新鮮」かということ ABK では挨拶はしてくれるが、こんなに礼儀正しくないから。どうして「驚いた」かと言うと、ABKの学生はどこの誰かわからない人にまで挨拶したりしないから。

教室内でも先生が入ってくると全員立ちあがって、挨拶。先生が「お元気ですか」と聞くと、声をそろえて「はい、元気です。先生も元気ですか」と聞いてくる。形にとらわれる必要はないという考え方もあるだろうが、口に出して示すことによってお互いの心が通じ合う、少なくともそのきっかけを作ることができるのは確かだ。現に私も挨拶されて戸惑いつつ、心が温くなるのを感じた。

同行した ABK 日本語コース事務長の山田さんが「ベトナムの学校はどこでもこんな感じなんですか」と聞いたら、「ドンズーだけです」と言われた。ホエ先生の理想とする教育が、ここでこんな形でしっかり実を結んでいるのが感じられた。理想があっても、実行に結びつけるのは難しい。改めてホエ先生の実行力、カリスマ性を再認識した瞬間でもあった。

2. ベトナム人教師の指導力、 ドンズーの組織力

ホエ先生の理想を具現しているのは、この地で、この学校で、日々教育にあたっている



ドンズー日本語学校で研究授業を行う筆者

ベトナム人の先生方。その先生方が、この、きちんと芯の通った、それでいて温かみのある学校の空気を作り、育て、維持している。

先生方との話し合いの中で、質問されたこと、「やる気のない学生にどう対処したらいいか、学習が進まない学生をどうサポートしたらいいか、この文法項目はどう提示したらわかりやすく印象に残るか」などなど。それらは常々 ABK で教えている先生方と共通の悩みだ。日本とベトナム、遠く離れていても、やはり同じ日本語教師なのだと仲間意識、一体感を感じる。

一方、ABK では聞かれない悩みもある。先生方が口々に、自分自身の日本語力に不安を感じると話すのを聞きながら、その気持ちの中にこそ、教師としての理想、努力、自負がこもっていることを私は伝えられただろうか。「まあ、こんなもんだろう」と妥協したり、「井の中の蛙」的に、自分は日本語が上手だと思っていたら、日本語力に対する不安を口にすることはない。実際、個人差はあるが、皆さん、かなり高い日本語力を持っている。それにもかかわらず、足りないと思うのは、教師としてよりよい教育をという理想に燃えているからこそ、そして、その理想に向けて努力を続けているからこそだ。実はどんなに優秀な教

師、あるいは通訳者でも、その国での生活経験があったとしても、成人してから学んだ言語を、母語話者と同様に話すのは不可能に近いのではないと思う。でも、それは母語話者よりも教師として劣るということではない。自分自身が日本語を学ぶ過程で困ったこと、工夫したことが、全て新たにその道を行く学生たちの道しるべとなるのだから。そして、それは日本人の教師にはできないことだから。

先生方との話し合いで感じた熱意は、私にとって心地よいものだった。ドンズーの先生方がこのように真摯に日本語教育に打ち込んでいるのは、ホエ先生を頂点に、ユエン先生、ギー先生を副校長として、組織固めがしっかりできているからだだろう。ホエ先生が文字通り馬車馬のごとく理想に向かって突っ走るのに合わせて、教師と学生が馬車の両輪のようにお互いに高めあい、協力し合いながら走っている。

その馬車をユエン先生とギー先生が御していると言ったら、ホエ先生に叱られるだろうか。ちなみに、ドンズーの教室には全てテレビカメラが取り付けられてあって、授業の様子をホエ先生がチェックするのだと言う。チェックされる先生も大変だろうが、チェックをするホエ先生の労力もそうとうなものはずだ。ともすると閉鎖空間になってしまう教室を、ほかの視点から見るとは大事なことだし、必要なことだが、なかなかできることではない。それを実行しているホエ先生の情熱に頭が下がる。

ドンズーの教室は廊下に向かう部分がすべて窓になっていて、廊下を通る人は教室の様子が見られるようになっている。それもホエ先生の工夫なのかもしれない。ABK も新校舎建設の際にはぜひそのような形にしてほしいと思う。

3. ドンズーの漢字教育、ベトナム的合理性

もうひとつ、ドンズー日本語学校の特徴の一つに漢字教育があげられる。私がぜひ見たいと思ったのも、その漢字教育だ。ベトナムはもともと漢字文化圏に属する国で、現在は漢字が使われていないものの、1つ1つの発音＝意味にはそれに当たる漢字が存在するようだ。ドンズーの漢字教育はその点に着目した独自の教育法だ。日本語を学ぶ上で、中国語を母語とする学習者が漢字の共通性の恩恵を受けていることは広く知られている。韓国入学者も、例えば「감사 (カムサ)」がもともと漢字表記で「感謝」と書かれたものであり、日本語では同じ漢字を「かんしゃ」と読むことが分かれば、母語と結び付けて語彙を覚えられますので学習の負担が軽減する。

それと同じような形で日本語の1つ1つの漢字をベトナム語の発音で覚えていくのが、ドンズー式漢字学習法（便宜的にこう呼ばせていただく）だ。ベトナム語で日本の漢字を勉強するのだから、ベトナム人の学習者にとって母語の優位性を遺憾なく発揮できることになる。ホエ先生はベトナムの学生にとって中級の読解が課題だとおっしゃっていたが、この漢字学習によって、ドンズーの学生は、同じように非漢字圏の学生として扱われるタイやインドネシアの学生より、またベトナムのほかの日本語教育機関の学生より、ずっと優位に立っている。初級の学習を終えたドンズーの学生は、日本語で書かれた文を見て、読めないながらもだいたいの意味を推測する能力を有していることになるからだ。

この漢字指導はベトナム人の教師でなければできないことは言うまでもない。もしかしたら、ホエ先生が自分自身の日本語学習の中

で生みだした工夫なのかもしれない。日本人教師の中にはその漢字指導法に批判的な意見もあるようだが、利用できるものはこだわらずに活用する、そのベトナム的合理性を私は素晴らしいと思う。

4. 日本人教師の明るさ、遅しさ

ドンズーがベトナム人の先生方によって支えられているとはいえ、学校を一步出たら、全く日本語環境がない。そんな学生さんたちの教育を別の面から支えているのが、日本人教師の皆さんだ。自然な日本語を聞く機会を与え、発音指導をし、日本人的発想や対応の仕方、文化や習慣などについて、身をもって示せるのが、日本人の教師ということになる。滞在中いろいろお世話になった伊藤先生から、来たばかりのときにタクシー代をぼられた話などを聞きながら、大変なことも思い出話にってしまう明るさ、海外で働きながら暮らす遅しさを感じた。今年5年目の伊藤先生はこっちへ来てからストレスを全然感じないとのこと。私にはとても真似できないバイタリティだ。

それは、一緒にタクシーで移動した日本人教師の皆さんからも感じられた。ベトナム語もわからないまま赴任して、日々生活しながらの慣れない教育活動。直前に担当クラスが変更になったり、教室に行ったら学生が急に増えていたり、何でもありの状況で、それでも黒板を背にして立たねばならないのは、日本ではちょっと考えられないことだ。それでも、与えられた環境の中で教師として精一杯努力する姿に感動を覚えた。なかなか教え方について質問できる人がいないと言って、授業開始前の短い時間にいろいろ聞いてくる熱



ドンズー日本語学校 スタッフ・教員のみなさん

意に敬意を表する。

海外にもいろいろな日本語学校があるだろうが、ドンズーで教師としてのスタートを切ることができたのは、この若い先生たちにとってきっとすごくラッキーなことだ。なぜなら、教師を育ててくれるのは学生だから。熱心に学習に取り組むドンズーの学生とともに試行錯誤を繰り返しながら、立派な教師に育っていくことだろう。

ちなみに、どれくらいベトナムにいるのか聞いたところ、任期は1年で、学生に人気があれば継続可能というシビアな答え。ホエ先生の評価基準は学生が目を輝かせて楽しそうに勉強しているかどうか。ホエ先生、やっぱり厳しい。でもその厳しさは自分自身にも同様に向けられているもの。ほかの先生方も同じように厳しく、学生さんたちも先生方の厳しさを高く評価していた。

5. ベトナムの日本語教育

ダナン分校の校長タン先生の話によると、先生方は週40時間授業を受け持っているとのこと。時間給の非常勤講師は、コマ数を増やさないと収入が減ってしまうので、たくさん

担当する傾向だという。一方、経済成長真ただ中のベトナムでは、より高い収入を求めて転職する人が多く、日系企業は高給だと思われているらしい。企業の方も一般のベトナムの企業より高い給料を出していると思っているが、日本以外の外資系企業には及ばないという。ベトナム人が時間をかけて学費を払って日本語を身に付けた「投資」に見合うほどの高給とは言い難く、不満を感じる人が少なくない。企業はそのことに気づいてい

なくて、ベトナム人がすぐ転職してしまうことに不信感を持っているらしい。何となくボタンの掛け違いを感じる。ベトナムでも日本語学習者は減少気味だそう。それでなくても日本が経済的に求心力を失いつつある中、今回の大震災の影響がどれくらい出るのだろうか。

ドンズーの力強い歩み、先生方の熱意に励まされ、勇気をもらった今回のベトナム訪問だったが、同時に不安も広がる帰路だった。いろいろ心配しても始まらないから、今できることをできる限り努力するしかないのだが…。

6. 終わりに

3月12日、東日本大震災の影響で予定より1日遅れての出発だった。渡航中止もやむなしの状況だったが、今回訪問できたことで多くの収穫が得られ、有意義な時間が過ごせた。滞在中いろいろご配慮いただいたホエ先生、ユエン先生、ギー先生、タン先生、伊藤先生、また授業見学や意見交換をしてくださったドンズーの先生方に心からお礼を申し上げたい。私にとって初めてのベトナムは、いろいろな意味で忘れられない思い出になるだろう。

先輩こんにちは！

アマリア マリックさん ～インドネシア 日本語を武器にステップアップ！

1986年から90年まで日本に留学したアマリアさんはA B K日本語コースで日本語を学び、観光専門学校に進学しました。卒業後はインドネシアに帰国し、就職。いくつかのお仕事を通じて様々な経験をされました。日本での思い出、仕事の経験、そして待望のメッカ巡礼のことなど、これまでの人生についてお話をいただきました。



✿ 日本への関心と日本留学

日本に関心を持ったのは国連で働いていた父がいたから。父からいろいろな国の話を聞いているうちに、アジアでただ一つの先進国である日本に好感を持ったんです。

そして高校卒業後はジャカルタの日本文化センターで働きながら日本語や日本文化のことを勉強し、2年後に日本に留学しました。

初めて来た東京のイメージは、とても安心して生活できる場所、というものでした。留学先だったA B K日本語コースの先生や宿舎のアジア文化会館のスタッフはとても優しく、何の不安もなく日本の生活に入れたことを覚えています。

実は日本に来て7ヶ月目に父が亡くなったのですが、円高のことなどもあって帰国を諦めたことがありました。日本生活で辛いと感じたのはその時くらいでしたね。

日本語学校の同期生は60人ほどでしたが、林間学校でみんなで富士山に登ったこと、ホームステイで日本人の生活を体験できたことなど、日本語学校時代の楽しい思い出はたくさんあります。クラスメートたちとは日本と母国の文化や習慣の違いについてお互いに語り合うことはありましたが、それ（文化の違い等）が原因で帰国したいとか、深刻に悩んでいる人はいませんでした。とにかく日本語学校での1年間は楽しくて、あっという間に過ぎて行きました。

✿ がんばった専門学校時代

日本語学校修了後は観光について学ぶために国際観光専門学校（現・国際デュアルビジネス専門学校）に進学したのですが、日本語

学校とは違って先生の日本語が聞き取れない、黒板の文字もよくわからず、初めの数ヶ月は本当に困りました。先生が「どうして書かないんですか」と聞いてくるのですが、私は「書けないんです」としか答えられない（笑）

学校には留学生が20人ほどいましたが、インドネシア人は私1人だけでした。中国人や韓国人は同じ国同士の人でグループを作り、お互いに助けあっていたようですが、私はそういうわけにはいかないので、日本人のグループに入っていていろいろ助けてもらいました。勉強だけではなく、休日には日本の観光地にもあちこち連れて行ってもらい、その点はインドネシア人が私1人で良かったと思いました。

この専門学校時代、本当に苦しかったのは卒業レポートの作成でした。まだパソコンはもちろん、ワープロも普及していない時代ですから、全て手書きで書かないといけない。書きながら、いったいあと何枚書かなければいけないのかと、途方に暮れた時もありました。でもがんばって少しずつ書き、そして日本人の友たちが日本語を直してくれて、なんとか20枚位を書き終えることが出来ました。先生たちも「良かったね」と、私の卒業を本当に喜んでくれました。

適わなかった日本就職、そして帰国

卒業後は日本で就職をしたくて、半年ほど就職を希望する旅行会社でアルバイトをしたのですが、結局その会社には就職することはできず、帰国することになりました。

帰国後はジャカルタのホテルで日本人顧客のためのゲストリレーションという仕事に就きました。ただ当時は日本人観光客が少なくて日本語を使う機会はあまりなかったので、

1年ほどでホテルを辞めて、日本企業の鹿島建設に転職をしました。鹿島建設では、数人いる日本人マネージャーの秘書だったのですが、日本語を話せるスタッフが私1人だったこともあり、様々な部署・人から、翻訳や通訳などいろいろな仕事を頼まれました。私が帰国した1980年代の後半は日本企業のインドネシア進出が活発になる一方で、日本語が話せるインドネシア人は少なかったので、日系企業の間でとても人気がありました。

この鹿島建設には4年半お世話になりました。辞めた理由はメッカに巡礼に行きたかったからです。私は以前からなんとか巡礼に行きたいと思っていたのですが、渡航費などのお金はありません。そこで何か良い方法はないかとガルーダ・インドネシア航空に勤めている友人に相談してみたところ、「ハジ（メッカ巡礼）の時期の3ヶ月間だけフライトアテンダントをやらないか」という返事が返ってきました。私はそんなことができるのかと驚いたのですが、ハジの時期のサウジアラビア路線はクルーの人手が足りなくなるために、こうした期間雇用があったんです。もちろん巡礼に行けてお給料までもらえるという、私にとっては夢のような話で、断ることはできませんでした。

巡礼のために退職、転職

メッカには世界中から様々なムスリムの人々が集まって来ていて、とても興奮しました。私たちは毎日のお祈りをメッカの方向に向かって行うわけですが、実際のメッカを目の前にして、「これが私たちが毎日お祈りをしていたメッカなんだ」という、想像以上の感動と喜びを感じました。心の中が今までに無

い、幸せな気持ちで満たされたんです。

実は巡礼が終わった頃、鹿島の社長から「終わったのなら帰って来て欲しい」と誘っていたことがありました。でも私はまた来年も巡礼に行きたいからとお断りしたんです。社長のお誘いは本当にありがたかったのですが、それ以上に私は巡礼の素晴らしさをもう一度体験したいと願ったんですね。

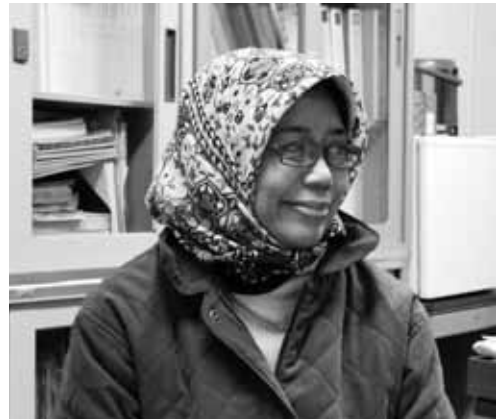
そして翌年二回目の巡礼を終えた後、今度は機内通訳職として正式にガルーダ・インドネシア航空で働くことになりました。当時は日本人旅行者が急増していましたが、ガルーダのフライトアテンダントは日本語ができませんから、機内通訳者の役割はとても大きなものでした。

ガルーダには4年間お世話になり辞めました。辞めた理由は自分の意思ではなく、アジア通貨危機によってインドネシアの経済状態が一気に悪くなったからです。この時は私だけではなく、全ての機内通訳職が辞めさせられました。

✿ 再び転職、そして家族と

その後はジャカルタのヤマハ音楽スクールに転職しました。スクールは生徒も先生もインドネシア人なのですが、社長は日本から派遣されていました。私はアシスタントマネージャーの仕事に就き、入社してしばらくしてからは日本研修にも行かせてもらいました。最終的にはゼネラルマネージャーまで昇格したのですが、ここも4年間で辞めることになりました。

理由は兄の会社を助けて欲しいという、家族の強い希望があったからです。兄の会社は日本や日本語とはまったく関係のないイベン



トプロダクションで、インドネシア国内でコンサートや大規模なイベントを企画・主催しています。

今私は、この会社でイベントを企画し、台本を書いて、演出をしています。この仕事を始めてもう6年になり、楽しくやっているのですが、家族と一緒に仕事をするということについては、どうしても馴染めない部分があります。例えば普通は仕事で悪いことがあっても、それは自分の家族とは関係のないことです。でも家族で仕事をしているとそういうわけにはいきません。仕事が終わった後も引きずらないといけない時もあるわけで、その点は難しいと感じています。

✿ 日本人と仕事をする事

これまで多くの日本人と仕事をしてきて、難しいと感じたことはありませんでした。日本人の仕事のやり方、この社長はこういうふうに考えている、ということがよくわかったので、私の仕事は早かったと思います。逆にインドネシア人は何をするのもゆっくりなので、日本人は気に入らない。一方でインドネシア人からすれば、アマリアさんはおかしい

ということになる。鹿島時代、私は仕事が終わってから、社長にインドネシア語を教えていたことがあるので、余計に社長と何かあるのではないかと噂されることもありました。インドネシア人は噂が大好きですから（笑）。

そうした噂をたてられるのは最初は辛かったのですが、私には後ろめたいことは何もない。仕事のやり方も私が正しいわけですから、だんだんと、自分が信じたやり方でやればよいと思えるようになりました。

会社の休みの週末には語学教室で日本語を教えたこともあり、日本に留学したおかげで様々な仕事を経験し、様々な人と出会うことができました。

留学前に父は、日本語を勉強したいのなら日本に行った方がいい。他の国に行けば英語しかできなくなる。そう言って私の背中を押してくれました。だから父には本当に感謝しています。

✿ 後輩に日本留学を勧められますか

私の甥も日本に留学していて、最近帰国したんです。彼は高校卒業後、オーストラリアに留学するつもりだったのですが、私がオーストラリアはインドネシア人が多いから価値がない、日本に留学したほうがいい、がんばれば日本語は何とか成ると彼を説得しました。もちろん日本語学校はABKに行かせることが前提でした（笑）

大学は明治大学に進学し、結局修士まで7年間日本にお世話になりました。実は彼の弟も日本に留学して、最近までABKで学んでいたんです。彼らの母親は日本に行かせて良かったと話しています。英語を話せるのは普通ですが、日本語を話せる人は

1) 氏名: フリガナ: アサヒ、アサヒ、アサヒ
苗字: アサヒ

2) ニックネーム: アサ (山)

3) 国籍: インドネシア

4) 性別: 女

5) 年齢: 20歳

6) 出身/専門/卒の学校: 国際貿易専門学校

7) 専攻: 貿易

8) 修了: 貿易実務科

9) 修了: 貿易実務科

10) 修了: 貿易実務科

11) スキル: 日本語、英語、インドネシア語

12) 日本での一番得意だったこと: 日本語を勉強すること、日本文化を学ぶこと

13) 日本での一番得意だったこと: 日本語を勉強すること、日本文化を学ぶこと

14) 日本での一番得意だったこと: 日本語を勉強すること、日本文化を学ぶこと

15) 日本での一番得意だったこと: 日本語を勉強すること、日本文化を学ぶこと

一言: 人生は短いから、やりたいことをやる。夢を叶えて、人生を充実させる。

1986年度日本語学校修了生「外観録」から

まだまだ少ない。日本企業は今またインドネシアに注目をしていますから、日本留学生も注目されています。

でもだからと言って広くインドネシアの若者に日本留学を勧められるかというと、それは難しいと思います。やはり日本語の壁は高く、円高の問題もあります。そして何より難しいのは日本社会のルール、外国人が日本で生活をする上で感じる閉塞感です。必ず外国人という目で見られ、外国人として扱われる。いつまでも自分は留学生だということを意識して生活しないといけない。そういう印象が強いんですね。それは人によっては大きなストレスになるのではないのでしょうか。

もちろん日本が好き、日本の学校で学びたい、日本語をマスターしたいという人たちにとっては日本は素晴らしいところです。少しでもそうした気持ちのある人は、ぜひ日本に来て学んで欲しいと思っています。

大震災 その時 留学エージェントは

UNIPLAN 留日センター（台湾） 維維（ウェイウェイ）さんに聞く

維維さん・・・1985年に大阪の東洋学園に日本語留学後、美容関係の専門学校に進学。帰国後の1993年、台湾最大の日本語誌出版社が設立した日本留学センター（留日センター）に就職。仕事を通じてABKと出会う。その後1995年に独立、代表を務める貿易会社 UNIPLAN の中に日本語留学部門を設立し、ABKを中心に多くの優秀な学生を日本に送り出す。ほかに翻訳者、美容講師、日本舞踊家など様々な顔を持つ。



留学生を見送り見守る台湾のお姉さん！

震災時の対応

編集部 最初に、ウェイウェイさんには、3月11日の東日本大震災後、早々に安否のご連絡をいただいた上、直ぐに台湾からたくさん非常食をお送りいただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。皆、とても感動していました。

ではまず最初に M8 の大地震のニュースを聞いた時、台湾でどのように受け止め、どのようなアクションを取られたのでしょうか。

ウェイウェイ 地震のニュースを聞いたときは本当に驚きましたが、地震が起きてから1時間ほどして、ABK から、東京や ABK は何も問題はなかったという連絡が入ったので、それを信じ、すぐに私たちが送り出している留学生のご家族に電話をして、そのことを伝え

ました。

また、日本にいる留学生とも連絡をとり、台湾のご家族に自分は大丈夫だと連絡するように伝えました。学生たちはすぐ連絡をしてくれたので、ご家族も安心したようです。

編集部 日本にいる学生とはどのように連絡をとったのでしょうか。

ウェイウェイ 震災当日、電話は通じませんでしたが、インターネットは使えましたから、メールやチャット、スカイプなどを利用しました。今の子どもたちはみなインターネットにつながるスマートフォンを持っていますから、ほとんどの子どもとすぐ連絡はとれました。

編集部 春コース開講の直前でしたが、新規生への影響は心配されましたか。

ウェイウェイ 私は NHK ニュースを見ていましたが台湾で起きた大地震の時と違い、日本

人はとても落ち着いていたので、春のコースに問題が出るとは思いませんでした。

編集部 ただその後、原発の問題が発生して台湾人留学生の中にも帰国をした人がたくさん出ましたが、やはり家族が心配したのでしょうか。

ウェイウェイ そうですね。とりあえず、日本は無事だとわかっていても、親御さんは本人の顔を見ないと安心できません。それに台湾も含め日本以外の国の報道は「日本が危ない、外国人はどんどん脱出している、東京には水も食料もない」といったニュースしか流していませんでしたから、親御さんは当然心配になり、こちらに連絡をしてきました。ですから旅行会社にいる弟に協力してもらい、帰国便の空席を調べて、空いているところに帰国を希望する学生の予約をどんどん入れて行ったんです。

編集部 今回は学生の帰国の手配までされたんですね。新規の学生については、日本語学校が開講をひと月延ばし（4月初旬→5月初旬）対応しましたが、その間に学生が不安になりキャンセルをするようなことはなかったのでしょうか。

ウェイウェイ ひと月の間、私は毎日学生や親にメールを送って、台湾の間違ったニュースをそのまま信じ込まないように、NHKのニュースを見て、より正確な情報を得ようと連絡をし続けました。加えて説明会を開催して、東京は安全であることをデータを交えてお話ししました。私は日本を、ABKを信じていますし、そのABKが5月に入学式をやると決めたのだから、何も心配する必要はない。私が責任を持ってみなさんを日本に連れて行きますと。親御さんには、留学生が減少している今は、良い大学に入れるチャンスですよ

ともつけ加えておきました（笑）。

編集部 そうしたフォローを続けていなかったら、離脱する方もいたのではないのでしょうか。

ウェイウェイ 今春25名が来日する予定でしたが、うち2名が次期10月コースへ延期となりました。もしフォローを続けていなかったら半分くらいの親御さんはお子さんの留学を止めさせていたのではないかと思います。実際に来日2週間前にまだ迷っている親御さんがいましたから、今の東京の放射能のレベル、それらが身体に与える影響等がどの程度のものなのかということを資料を用意し説明し、納得していただきました。

編集部 やはり学生より親の心配が大きいということですね。

ウェイウェイ 学生は全く心配していません（笑）。むしろ入学式がひと月延期されてやるのがなくてつまらないから、早めに日本に行けないのかと聞いてくるんです。ご家族は5月の期日ギリギリに行けばいいじゃないかという感じですが、学生からはできるだけ早く行きたいと毎日電話がかかってきました（笑）。ですからご家族に安心していただくために来日後は、学生たちにすぐ家に連絡を入れてもらいました。電話はもちろん今はパソコンがありますから、映像ですぐに日本の様子を伝えられます。私も、こちらの様子を写真に撮ってホームページに掲載し、「東京は地震の前と変わってないよ」ということをアピールしました。また、健康保険証も来日後すぐに手続き、その写真もご家族に送りました。何かあってもこれがあれば病院ですぐに診てもらえますよということなんですが、こうした小さな情報を伝えてあげるだけで親御さんは安心できるんです。

編集部 初めて家族の元を離れて外国生活を

する学生もいるわけで、中には精神的に不安定になってしまう人もいますと聞きますが、ウェイウェイさんの学生さんはいかがでしょう。

ウェイウェイ 今のところそういった学生は出ていません。私のところではしっかり面接をして、目標がはっきりしている人以外はお断りしているんです。この人は信用できない、勉学意欲が低いと感じる人には、あなたはABKで学ぶのは難しいと、他の学校を勧めています。ちょっと厳しいんですけど（笑）

編集部 営利面だけを考えるとできないことですね。今回来日した学生さんからは何か不満や不安の声は聞かれましたか。

ウェイウェイ ありませんでした。最初の1週間は私も日本に滞在し、みんなを連れて買い物などいろいろなところに出かけて行き、日本での生活を理解してもらいます。不安や疑問があればこのときに解決します。今回は来日前にインターネットでふとんを買って、事前に寮の各部屋に準備をさせてもらったので、夜遅く到着した後に慌てて買い物に行かなくてもすみました。ただ、地震の影響で布団が品不足になっていたり、値段が上がって

しまったりという問題はありました。それからお米が不足しているというニュースがあったので、台湾からお米をたくさん持ってきてもらったのですが、実際に来てみると既に何でも売っていますから、今は私も学生も特別心配していません。

充実した留学生活のために

編集部 台湾にまで来日後の学生さんから相談があるそうですね。

ウェイウェイ 来日後は進学とか就職とか、日本語学校を修了した後の進路についての相談が本人だけでなく親からもきます。私も日本の専門学校を卒業していますから、その経験はもちろん、その学生にとって何がベストなのかをよく考えて、ABKとも連携してアドバイスするようにしています。それ以外でも学生とはいつも連絡を取り合っているの、私の来日を知って会いに来る人もいます。ウェイウェイ相談室は24時間営業なんです（笑）

編集部 日本はまだ原発の問題が解決していませんが、これからの学生募集に対する不安などはありませんか。

ウェイウェイ 今年10月開講コースの学生はもう予定の人数が集まりましたから、心配はしていません。台湾は日本統治時代があったせいで、お年寄り日本政府を信じており、それが自然に若い世代にも浸透しているように感じています。ですから日本政府、ABKが「大丈夫」（保証する）と言うかぎり、私は心配しないんです。



ABKのウェイウェイ家族のみんなと

私は ABK 担当になります！

編集部 話は変わりますが、ウェイウェイさんはどのようなきっかけで ABK 日本語学校のエージェント(代理店)になられたのでしょうか。

ウェイウェイ 私がこの仕事を始めたのは1993年からですから18年になります。日本留学から帰国して、日本語字誌の出版社が作った日本留学センター(留日センター)に就職したのがスタートです。私はその仕事で日本全国の日本語学校を回りましたが、一番好きになったのが ABK でした。ABK は建物も大きく施設もしっかりしているし、進学のための勉強時間も長く、何よりスタッフや先生たちがとても優しくったんです。私は、台湾の学生を ABK 中心に紹介したいと社長に話をしたのですが、社長は「商売は商売だからもっと利益の高い学校と契約すべき」と譲ってくれませんでした。そこで子供が産まれた1995年に、「私は ABK の台湾担当になるよ」と宣言して独立したんです(笑)。

編集部 そこまでして ABK を選んでくださり、ありがとうございます。

ウェイウェイ 自分が留学生時代には暗く辛いこともありました。ですから、これから日本に行く台湾の留学生にはそんな思いはして欲しくない。私は台湾の後輩たちが素晴らしい日本生活を送るためのお世話をするんだと神様と約束しましたから、最初に留学する日本語学校は本当に信用できる場所でなければなりません。だから ABK なんです。

私が連れてきた学生たちは修了生を含めてみなフェイスブックを持っていて、そこで ABK のことを中心に情報交換をしています。今その『ABK 家族』は1,132名にもなって



大好きな着物を着て

いて、彼らはみんな ABK に感謝しています。さらにその『ABK 家族』を閲覧している会員が十万人以上いるんです。みんな日本に興味がある、日本語を勉強したい、留学したいという人たちです。だからそのフェイスブックを通じて ABK に関心を持ち留学の相談に来る人もいます。

編集部 ABK としては、どんなに高額な広告よりも意味のある広報ができているということです。

ウェイウェイ こうしたネットでの情報や卒業生の紹介、例えばこの春の学生は、知り合いの子どもやその友人など、口コミで ABK の評判を聞いて来た人たちがばかりです。私自身は台湾全土の高校や大学を常時回って、ABK を紹介するための説明会を行っています。「ABK 日本語学校が頑張っている以上、私も頑張って良い学生を連れて行きますよ!」ということですね(笑)

編集部 将来あるたくさんの子供たちの留学のお世話を天職と心得、がんばっているウェイウェイさんの期待と信頼に私たちも応えられるよう、しっかりと学生さんを見守り支えていかなければなりませんね。本日はありがとうございました。

東日本大震災

「アジア人財資金構想 東日本大震災特設サイト」より

被災した留学生・留学生OBの声<http://www.ajinzai-sc.jp/>**アハマド ズフリさん**

出身地：インドネシア

所属：東北大学大学院情報科学研究科修士課程2年
在籍。「アジア人財資金構想」高度専門留学生育成事業
国立大学法人東北大学 産学協同により地域創造
型アジアIT人材育成・定着プログラム 第3期生

—— 震災時の様子をお聞かせ下さい。

今回の地震があったときは、東北大学青葉山キャンパスにある研究室で成果報告会に出席していました。先生の指示で机の下に隠れましたが、これまで大きな地震を体験したことがなかったのでとても怖かったです。揺れがおさまった後、一時避難先になっている研究棟下の駐車場に研究室の学生全員で避難しました。その後、アパートまで徒歩で帰りました。

アパートに帰宅すると、部屋の中の荷物が地震のため散乱し困っていたところ、近所の日本人の方が避難所になっている近くの小学校を教えてくれたので、そこに向かいました。しかし、その避難所では400人くらい避難していたのですが、外国人が私1人だけだったことと、暖房があまりなく寒かったこともあり、翌日、友人達（インドネシアからの留学生）が避難している別の避難所に移りました。

避難所を移動した後に「アジア人財資金構想」プロジェクトのスタッフが食料を持ってくてくれました。ここの避難所には3日間滞在し、その後アパートに戻りました。電気は復旧していましたが、ガスは4月中旬まで復旧しませんでした。食料はスーパーなどに並

んで手に入れていましたが、数量などに制限があり多くは買えませんでした。

ライフラインが復旧していないことと、食料確保への不安を感じた為、バスで山形まで移動し、飛行機で東京にあるインドネシア大使館に向かいました。その後母国へ2週間程一時帰国しました。

—— 母国の家族の反応はいかがでしたか。

母国の両親には、地震発生直後に電話で無事を連絡しました。父親は心配していたと思いますが言葉には出さずにいてくれましたが、母親はひどく心配していました。

インドネシアには原子力発電所がないので、母国ではかなり大々的に報道されていました。原子力発電所の事故以降に放射能がアメリカまで飛散し、健康にも大きな影響が出ているとか、間もなくインドネシアまで放射能が届くなどの報道もあったそうです。

これらのことを聞いて、私が日本でテレビやインターネット等で集めた、放射能の具体的な測定数値等インドネシアのニュースで報道されているほど深刻ではないことを両親に説明し、理解してもらいました。

両親を安心させたいこともあり一時帰国しましたが、ある日、父親から「今、あなたがインドネシアに戻ってくることは間違いではないけれども、自分が正しいと思った事、困っている人の助けになる事をしたほうがいいのではないか」とアドバイスを受けて、被災地で困っている人達の役に立つ事と日本で就職活動や修士論文を頑張りたいという気持ちがありましたので仙台に戻ることを決意し戻り

ました。

—— 帰国後から現在の生活はいかがですか。

4月3日に再来日したのですが、大学がまだ始まっていなかったもので、就職活動を中心に被災地のボランティアなどを中心に活動していました

ライフラインは、電気・水道・通信は再来日時にすでに復旧していました。また、スーパーやコンビニエンスストアも通常通り営業していたので特に生活で困ることはありませんでした。ガスのみ4月中旬に復旧したのですが、それまでは、フィットネスセンター等でシャワーを浴びる事ができたのでさほど困りませんでした

—— どのようなボランティア活動をしましたか。

「インドネシア留学生協会」の活動として、メンバー達と一緒に石巻市鮎川（仙台から北に50km）の避難所で炊き出しに参加しました。避難所では、ナシゴレンを調理したり出来た料理を皆さんに配るお手伝いをしました。

私が訪ねた避難所では被災された方に高齢

者が多く、皆さんのこれからの生活を考えると悲しくなりました。そんな皆さんと話をしたり、配布した料理を喜んで食べてくれるのを見てとても嬉しくなりました。

—— 今後の復興について思うことを教えてください。

今回の地震では、被害から復旧の素早さに日本の凄さを感じました。高速道路が1週間、新幹線も1ヶ月程度、仙台駅周辺もすぐに復旧したことなど感心させられることがたくさんありました。また、私は大学でITを学んでいるので、新幹線の地震感知システム（地震を感知して自動的に列車を急停止するシステム）など災害に対する防災システム等が整備されていることと、それが今回の震災でも稼働し、二次災害を防いだ技術力に驚きました。

私が日本に留学した理由の1つに、日本を支えるような企業に就職することがあります。日本での就職活動は留学生にとって大変なことですが、頑張って日本企業に就職したいと考えています。そして、就職した企業で日本の復興の力になれるように頑張っていきたいと考えています。

東日本大震災 関係者からのお見舞いの言葉

3月11日、三陸沖を震源としたM9の大地震と津波により未曾有の災害が引き起こされた。そして福島原子力発電所の故障と水素爆発のニュースは瞬刻間に世界中を駆け巡った。日本はどうなるのか!? 第2の故郷日本、そしてABKを案じ、各国のABK関係者から安否の連絡が入った。

吉原エツ子（3/28） 職員、留学生の皆様震災での影響大丈夫でしょうか。

Zhang Yan 張延（3/29） 明るい未来を...

栗原静子（4/18） 今回の大災害に関しては

大変お気遣い頂き、有難うございました。やっと11日に池袋からバスで5時間かけて（安いし意外と快適）仙台へ到着。気仙沼行きに乗り換え夕方6時頃我が家にたどり着きました。その直前に強い余震があり、三陸道が閉鎖されたらしいのです。仙台到着が予定より早かつ

たので1便早いバスに乗りましたが、もし予定のバスに乗っていたら、途中のどこかで野宿したかも知れません。またしても“辛うじて”難を逃れた感じです。翌日、街を見に行きました。渦高く積もれた瓦礫の山々、市中まで運ばれて来た漁船、折り重なった数台の車、家屋なんか全く見当たりません。特に海岸近くは街全体がスッポリ持って行かれたようです。1ヵ月前に見た古里とは天と地以上に違い過ぎました。とても現実とは思えません。幸運にも我が家も兄宅・姉宅も大した被害が無かったのはたまたまだけの運と思い、何か手助けを考えていました。結果、避難所が近くに在るので、明日から洗濯をしてあげる事にしました。避難所で大声で「洗濯しま〜す」と叫んでも遠慮がちなのですが、個人的に当たると結構「助かります」と言ってくれます。最初の日には2家族でしたが今日は4家族から依頼され我が家の古洗濯機も頑張っています。まだまだ日増しに増えていくと思います。

1ヵ月間被災から離れ自分だけ安全な所に居たと言う後ろめたいものが少しでも剥がれていくよう、当分洗濯女としてサポートして行きます。

そんな訳で、私は元気に頑張っていますので、ご安心下さい。小木曾様はじめ、皆様に宜しく。

(5/15) 過日はお忙しい中、お時間を割いて頂きまして大変ありがとうございました。あの当時、日本を離れた学生さんたちが今は戻り、明るい声が聞こえるようになりましたでしょうか？ そうある事を願っています。本日、メールを差し上げたのは今回の大震災を心配して下さる多数の皆様の中に ABK に関係を持つ非常に多くの方々からお見舞いや、哀悼、励ましを頂いた事を「アジアの友」で知り、

一被災地気仙沼を故郷に持つ者として一言御礼を申し上げなければいけない、と思ったからです。拙い文章を添付致しましたが、皆様に心から感謝している旨、何らかの形でお伝え頂ければ幸いです。

(5/17) 学生さん達が戻ってきて本来の学業に専念できる状態になり、私も喜んでおります。大地震直後の13日早々、別府市に駐屯する自衛隊員500名がほとんど休憩を取らず、わずかに30時間で気仙沼入りして様々な支援活動をしてくれました。今朝、そのうち400名が今度は南西諸島の防衛の為、当地を離れました。多くの市民が垂れ幕や大漁旗を持ってありがたいの声と共に見送りました。彼らは雪降る北国でテントで寝起きし（当然と言われればそうかも知れませんが）、私達の為に尽力してくれたと思うと、感謝で涙が出るほどです。実際、何人も泣きながら手を振っていました。

「この度の日本語学校の学生の来日には各国のエージェントの方々の並々ならぬ努力があった」とおっしゃるように、人が立ち上がる時、勇気をもらう時、その陰にひたすら努力してくれている人達が必ずいるのですね。今年の大震災は実に様々な事を実感として教えてくれました。本当に「さすが日本!!」と思われるような迅速で賢明な方策が強く望まれますね。有難うございました。

柳瀬修三 (4/19) この度の東日本大震災で被災された方々に心からお見舞い申し上げます。震災の大きさと原発の放射能漏れのこれからの心配しながら様子をみています。

この度の震災で日本へ留学されている方及び新学期から来日を予定されている学生の帰国とキャンセルが出ていることを知りました。早く落ち着くと良いのですが。



しょうがくきんじょうほう 奨学金情報

■ しょうとうようこくさいしょうがくざいだん せいでん 佐藤陽国際奨学財団 Asia 留学生奨学制度

対象：①バングラデシュ、ブータン、ブルネイ、カンボジア、インド、インドネシア、ラオス、マレーシア、モルジブ、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、東ティモール、ベトナムから来日し、もんぶがくしょうしよかつの大学の学部または大学院に在籍する当該国の国籍を有する私費留学生 ②他の奨学しえんだんたいとう しょうがくきん らい せんびん じゆきゆう 支援団体等から奨学金に類する金品を受給していない者（しゆがくしようれいきん けんきゆうじよせいきん もの がくしゆうしようれいきん けんきゆうじよせいきん にほん しょうがくの交流に必ず出席できる者 ⑤日本で就業している親がいない者 ⑥「博士」の学位を取得していない者 ⑦現在在籍している課程の在籍期間が奨学金受給開始時期から1年以上ある者 ⑧勉学・研究に支障のない日本語能力を有する者 ⑨当財団の奨学生を終了後、同窓生として交流活動に積極的に協力できる者

きゆうふきんがく がくぶせい げつがく 給付金額：(学部生) 月額 12 万円、
(大学院生) 月額 18 万円

給付期間：① 2011 年 10 月期生→2011 年 10 月から 2013 年 9 月までの 2 年間

② 2012 年 4 月期生→2012 年 4 月から 2014 年 3 月までの 2 年間（ただし、採用時の課程に在籍する期間を限度とする。）※支給開始は入学時期により 2011 年 10 月と 2012 年 4 月に分かれます。必ず募集要項を確認してご応募ください。

採用人数：計 10 名前後

応募：在籍する大学の留学生課を窓口として、応募書類を募集期間内に留学生課から財団宛に郵送にて提出すること。

募集期間：9 月 5 日（月）～9 月 9 日（金）

※ただし、2011 年 10 月入学新 1 年生に限り 9 月 21 日（水）まで受け付けます。

団体連絡先：〒153-0064 東京都目黒区下目黒 1-7-1 公益財団法人佐藤陽国際奨学財団 事務局 ☎ 03-5487-2775

URL <http://www.sisf.or.jp>

イベント情報

日本語教育能力検定試験2011

日本語教員となるために学習している者、日本語教員として教育に携わっている者を対象として、日本語教育の実践につながる体系的な知識が基礎的な水準に達しているかどうか、状況に応じてそれらの知識を関連づけ多様な現場に対応する能力が基礎的な水準に達しているかどうかを検定します。

試験日 2011年10月23日(日)

試験地 札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡(予定)

出願期間 2011年6月20日(月)から8月8日(月)(消印有効)

受験料 10,600円(消費税等含む)

主催・問合せ

財団法人 日本国際教育支援協会 TEL 03-5454-5215 <http://www.jees.or.jp>

MEMBERS

〈ご入会とご寄付の報告〉

2011年4月

特別会員

染谷 公久 坂東市
来山 文泰 文京区

賛助会員

札幌大学 札幌市

正会員

(3口)

簀下 勝 千葉市

(1口)

戴志堅／陳艶萍 横浜市
西尾 仁美 函館市
奥山 義夫 町田市
庄司 龍平 神戸市
岩井 秀生 入間市
松本 誠一 文京区
埜村 宗郁 福岡市
濱田 修 松原市

石渡 荘介

岩原 慶一

牧 美保子

鈴木 智

真弓 忠

横田 雅弘

国士館大学

新宿日本語学校

張本松胤／王仁沁

足立区

杉並区

所沢市

日立市

渋谷区

千代田

世田谷区

新宿区

相模原市

ご寄付

簀下 勝

服部 泰子

河合 秀高

千葉市

豊田市

横浜市

2011年5月

正会員

(1口)

飯沼 信彦

伊藤 源之

東京都太田記念館

佐々木 孝一

高橋 作太郎

揖斐郡

東久留米市

杉並区

文京区

静岡市

岡本 妙子

熊沢 敏一

河内 若菜

堀 幸夫

(財)三浦教育振興財団

千野 克子

近藤 清子

竹嶋 俊紀

鈴木 八重子

菊地 絵里奈

赤星 裕

岩尾 明

池森 亨介

(財)日立国際奨学財団

孟令樺／計宇生

小野寺 武夫

宮前 つる代

横浜市

松戸市

目黒区

杉並区

松山市

墨田区

秩父市

松戸市

志木市

葛飾区

船橋市

日田市

宇都宮市

千代田区

渋谷区

国分寺市

秩父市

ご寄付

栗原静子

藤澤 隆博

気仙沼市

羽曳野市

たくさんのご協力あり
がとうございます

ご報告

A B K 同窓生募金 (2011 年 5 月 31 日現在)



ご協力ありがとうございました。募金のご報告は『アジアの友』並びに同窓会ホームページ
 < <http://www.abk.or.jp/abkd/fund/houmei roku.html> > で随時ご報告させていただきます。

●目標額：5,000 万円

●募金額：14,026,613 円

●寄付者数：293 件

〈 〉内は出身・在住国、地域、ABC 順。日本のみ五十音順

〈ブラジル〉セキヤ タチバナ、フランシスコ ヒロノリ イシハラ、アイコ ミズマ タチバナ

〈中国〉戴志堅 (在日)、李惠春、劉越 (在日)、劉明華、沙蓮香、倪玉、孟令樺・計宇生 (在日)

〈日本〉池森亮介、伊藤源之、岩尾明、大村光、小木曾建、勝部純基、河合秀高、川崎依邦、酒井杏郎、佐藤正文、尚美学園大学国際交流センター、鈴木八重子、竹嶋俊紀、田中稔子・静子、外山経子、中曽根信、西垣宰朋、西嶋勝彦、西村清人、濱田洋子、林均、牧美保子、松井正枝、宮内俊治、藪下勝、山崎光郎

〈韓国〉韓英鳩、Oh Bum Suk

〈ミャンマー〉Aung Kyaw

以上、39 件

2011 年 3 月 31 日以前の寄付者 (254 件)

〈バングラデシュ〉A.K.M. Moazzem Hussain、橋本イスラム・ヌルール

〈中国〉賈輔忠、蔡堅平、郭南燕、李春利、Meng Xiao Xiao、全浩、Zhou Xiang、可軍 (広中軍二)、呂新一、Ou Yang Fei 欧陽菲 (在日)、Wang Wen 王穩

〈カナダ〉張素華 (香港)

〈香港〉Choi Man Wa 蔡敏華、梁志瞬、YEUNG KING HONG 楊経航 / 蔡金燕 (マレーシア)

〈インド〉AAAWI(AOTS Alumni Association of Western India)、ABK-AOTS Dosokai Chennai Center、A. P. Wagle、Abul Sharah、Ashok Saraf、雅留宮久麿 (在日) / 澄子 (日本)、M. Ramamurthy

〈インドネシア〉Budhi Setiawan Kohar

〈カンボジア〉忍足林基 / 美恵子 (日本)

〈日本〉新井重光、池添尚行、池野朋彦・晶子、伊佐玲子、石井信彦、石原誉慎、石原廣、稲垣敏彦、井上恵子、井上駿、伊藤順、岩佐佳英、上高子、植田泰史、畝本昌介、漆嶋才子、大久保伸枝、大谷里恵子、小木曾建 (2)、小木曾大、小木曾友 (2)、奥山節子、奥山義夫、小野寺武夫、小原正敏、加倉井弘之、川上剛、北マツ、北川泰弘、北原千絵、北山文泰、久津間優子、工藤正司、工藤幹夫 (2)、久保哲也、栗原静子、黒田一雄、香月恵美子、小林泰子、金野隆光 (2)、早乙女和義・博子、佐藤正文、佐藤玲、渋谷寧伸、清水勇治・泰

代、白石勤、栖原暁、高木桂子、高道俊彦(2)、高野靖子、高橋喜久江、高橋作太郎、高柳直正、田川明子、田口昌子、竹田肇・和子、竹林惟允、田中多美子、田中美智子、谷口哲雄、田守智恵子(2)、近山武子、土屋幸子、鶴尾能子、鴛田純一・由美、堤祐子、外山経子(4)、中曾根信、中畠正喜、中原和夫、西谷隆義、西原彰一、西本梶、忍足絵美、忍足眞理、野村美知子、秦幸吉、樋川好美、平井まりこ、平岡明子、平峯克、福譲二、藤原一枝、布施知子、細川哲士、堀香奈美、堀幸夫、堀内智代子、榎操、松岡弘、松崎松平、村山秀男、山海保、山口恵明(2)、山之内正彦・萩子、湯山佳代、依田良子、吉田菜穂子、吉田裕子、吉原エツ子、六文会、渡辺譲二、匿名希望(3名)、50周年委員会売上

〈韓国〉崔銀珠、Youn Seong Kook 尹誠國

〈マレーシア〉Ang Wan Leng、Beh Teck Chuan、CHANG CHEW CHIN 張昭成、CHEW CHONG SENG 周昌盛、CHIA LITECK 謝礼得、Chiu Jin Eng 冰周人英 / 林惠冰、CHONG TECK FOO 張德福、EE LEY TIONG 余勵忠、FOO MING LIAN 符明蓮、FOO SIANG SENG 符祥盛、FOO SOO KONG 符素光、HEONG SEE YONG 香世運、KENNETH WONG 黃復翔、LEE KIAN LING 李建霖、LEE KONG/LAM CHOK YAK、LEE MIOW YING 李妙英、Lee Tee Boon、LEONG KEE HUO 梁其和、LIEW TECK BOON 劉德文、Lim Hock Lai、LIM SIN YEAN 林欣燕、LOKE HON YEE 陸漢宇、LOW KIM LEE 劉金莉、NG TIAN ENG 黃殿英、ONG CHENG CHUAN 王清川、ONG CHOOI LEE 王翠莉、PANG CHOON BOON 彭俊文、POH SIEW HUI 傅秀慧、Seah Boon Chieng、SIM KEE HONG 沈其豐、Soon Sai Kheng、SOO SECK HENG 蘇錫興、SU KUI SHENG 蘇桂昇、Tan Cheet Yong、TAN KEEHANG 陳繼漢、Tan See Seng 陳時生、TAN SOO SIN 陳素芯、Tan Wee Pin、Tan Wee Seng、TANG ENG HUAT 陳永堯、TENG KIM YIN 鄧錦雲、TEO KWEE SWEE 張貴水、Tiang Chuan Seong 鄭俊雄 Toh Leong Chee、WONG FEE PING 黃慧萍、WONG SENG KENG 黃成耕、WONG TZONG CHYANG 黃宗強

〈ペルー〉Olga Shimada Keiko 〈バキスタン〉A.R.Siddiqi

〈シンガポール〉Foo Choo Wei、顔尚強、王癸其

〈台湾〉Chen Ai Chi 陳艾圻、Liu Li Mei

〈タイ〉浅見博子、Bandihit Rojarayanont、Chamlong Srimuang、Chanintorn Mekaratana、Chovet Yimsirikul、Ditdi Chatputtongul、Gannnigar Koontanakulvong、神崎ソラダ(在日)、Kornkeo Praisontarangkul、Krisada Visavateeranon、Meena Thamchaipenet、Mongkol Pianapitham、Navarat Srisuponvanit、Niramai Thanatavee、小野崎忠士(日本)、Patamavadee (Bongsayan) Narushiso、Phiphat Chaichanavichakij、Pholchai Limviphuvadh、Pilaipan Mekaratana(2)、Pisan Thanatavee、Pornanong Niyomka H.、Prayad Kongkasawad、Prayoon Shiowatana、Saowanee Patrakarn、Sathida Mekaratana、新宅光、Sivaporn Sirilatthayakorn、Sucharit Koontanakulvong、Suchittra Hunbuncharkit(2)、Supong Chayutsahakij、Suthee Chutchaiwett、Suvit Vibulsresth、Tana Tangtrongsakdi、泰日経済技術振興協会、泰日工業大学 (THAI-NICHI INSTITUTE OF TECHNOLOGY)、Vachirane Limviphuvadh、Vachiraporn Limviphuvadh、Virat Thiravathanavong、Wannadee O'sorup、Wiwut Tanthapanichakoon、柳瀬修三、Yoshiko Limviphuvadh

〈アメリカ〉宮下偉路(趙偉路; 中国・日本)

〈ベトナム〉Dao Thi Minh、Le Quynh Chi、To Buu Luong、Nguyen An Trung、Tran Thanh Viet

募金に関するメール

*氏名(在住国・地域)、メールの日付

中曽根信 3/24 応援しています。

松井正枝 3/25 こんな時こそアジアの若者は日本を反面教師に

賈蕙萱 4/18 小木曾理事長 曹其鏞先生の善挙についてのスピーチ主旨文を感激して拝読いたしました。ここで御礼申し上げます。その気高い精神を多くの人に伝えていきます。近頃、貴国の大地震並びにアジア文化会館のために募金しております。

尊敬する小木曾理事長 前略ご免下さいませ。先日、曹其鏞先生の善挙について、感動させられた資料をご転送くださったこと、誠にありがとうございました。曹其鏞先生と連絡できました。感謝と中国大学の事情などをご参考のため、いくつかの提案を出しました。今月の22日に曹其鏞先生は清華大学百周年記念のために時間を割かれて、私と会うことになりました。今後、中日友好交流と相互理解を促進するために、ともに努力して行きたいと思います。最近、貴国の東日本大地震のために、いろいろな方法で募金している所です。貴アジア文化会館を立て直す募金にも力を入れませんが、金先生自身がお年寄り、奥様もご病気で、その大任の完成は大変だと思います。よって小木曾理事長はもう一度、陳洪真女史の一家にご連絡を入れられてはと思います。では、時節柄ご自愛くださるよう祈念しております。

4/23 尊敬する小木曾理事長 前略ご免下さいませ。22日に、曹其鏞先生とお会いしました。

“アジア文化会館に住んだ人、中国人並びに他の国のアジア人が多少を問わず多く募金参加される原則のもとで、立て直しに援助します。”と言われました。

呉範錫 (OH BUMSUK ; 韓国) 4/19

いつもお世話になっております。2000年4月から2001年3月まで通った呉範錫 (OH BUMSUK オ ボムソク) です。さて、今度の基金募集に少しでも役に立つかと思って、みずほ銀行の方に5万円を送金しまして、ちゃんと届いたかどうか知りたくてメールを送りました。日本は地震で心配ですね。くれぐれも健康にご注意してください。

小木曾建 4/27 新事業が順調に行きますことを祈ります。

李惠春 (中国) 5/6

1981年から83年までABKにお世話になった、倪玉、沙蓮香、劉明華、李惠春の4人の他、ABK日本語学校で一年間勉強致しました劉越(李惠春)5名が、ABKのご発展をお祈り申し上げます。

aiko mizuma tachibana (ブラジル) 5/7

お元気ですか。やっと寄付願いのポルトガル語版ができました。また多くはないのですが分かった人たちにメールしています。5月の末に日本に行きますが関空より広島で東京には行きません。お電話いたします。

ASIA BUNKA KAIKAN DOSOKAI (ABKD)

Campanha de arrecadação para ABK Dosôsei

Campanha de arrecadação à ABK Dosôsei pagável com cartão de crédito.

Solicitação de colaboração pró ABK Dosôsei

Fundação Asia Gakusei Bunka Kyokai (ASCAL)

Yu Ogiso – Presidente

Nossas escusas por ter passado sem notícias. Espero que os amigos estejam gozando plena saúde.

A Asia Bunka Kaikan (ABK) onde os amigos passaram a sua juventude ou mantiveram intercâmbio, está completando 50 anos e está se preparando novas investidas com vistas à nova etapa. Ficaríamos muito satisfeito que nesses anos tenha contribuído nos estudos, tecnologias, formação da personalidade, na promoção de integração humana e human net work além das fronteiras.

A atividade do ensino da língua japonesa que a ABK iniciou em 1983 (Curso de Japonês da ABK) , atingiu a marca de 400 alunos. Mas não foi ainda reconhecida como escola devido ao estado do prédio. Há necessidade da adaptação da técnica à prova de abalos sísmicos, e procedimentos de ordem fiscal, estamos necessitando da reforma (mais da metade da SBK) para uso da escola. Isto significa a consolidação da base da atividade educacional, de formação de novos talentos jovens que virão suceder os amigos. Estamos nos recorrendo as pessoas envolvidas, bem como aos amigos que tiveram relações com a ABK (ex-bolsistas e japoneses relacionados) para completar este grandioso empreendimento de abrir a nova era da ABK. Permitam-nos a apresentação do plano de arrecadação pró ABK Dosôkai, conforme abaixo, sabedores das múltiplas dificuldades decorrentes da crise mundial, mas contamos com a sua compreensão e colaboração. Preliminarmente a idéia era de arrecadar fundos através da ampliação o human net work nos países da Ásia, além do Japão baseado no espírito da ABK, que possibilitaria um resultado bem melhor do que contribuição pessoal individualmente. Era a discussão desenvolvida até então. Entretanto na ocasião da comemoração do cinquentenário da ABK, chegaram à conclusão que deveria dar prioridade à construção da escola que a ABK está necessitando de imediato, no ponto de vista da existência e a continuidade da Entidade, de iniciar a campanha que estamos lançando no momento.

Contamos com a compreensão e indispensável contribuição.

Informações: Secretaria da Comissão Comemorativa do Cinquentenário da Asia Gakusei Bunka Kyokai.

Obs. Esta carta foi gentilmente traduzida pelo colega Dr. Atushi Yamauchi

Estamos acrescentando o seguinte:

Todos os bolsistas e simpatizantes que vierem a contribuir, terão os seus nomes gravados numa placa comemorativa.

Se você conhece algum colega bolsista ou simpatizante que usufruiu das dependências do ABK, favor repassar esta carta com os demais anexos.

O desenho do projeto foi elaborado pelo Escritório de Engenharia Tachibana.

DETALHES DA ARRECADAÇÃO

- 1 Denominação: Arrecadação pró ABK Dosôsei
- 2 Meta de arrecadação: 50.000.000. (cinquenta milhões de ienes)
- 3 Valor da cota de contribuição: 10.000 ienes (será aceito fração de cota. Neste caso acima de 1.000 ienes (Obs.01))
- 4 Destino: Será destinado ao capital de giro da Pessoa Jurídica Educacional a ser construída pela ABK (Obs.01)
- 5 Doadores alvo: Ex-bolsistas, ex-estagiários de vários países, estudantes japoneses, ex-associados da Chiyu-kai (±1.000 pessoas) que utilizaram do alojamento da ABK/Kyodairyo; ex-alunos do curso de japonês da ABK (aproximadamente 5.000); diretores, professores da ABK (aproximadamente 1.000); e todos os simpatizantes a esta campanha.
- 6 Duração da campanha: 2 anos a partir de 01 de Abril de 2010.
- 7 Forma de remessa: Fazer a remessa na forma 1) , 2) ou 3)

- 1) Remessa com a liquidação do cartão de crédito (poderá ser feito pelo Web site)

Contribuição <http://www.abk.or.jp/abkd/fund/fund.html>

• Por medida de segurança limitar cada remessa em 300.000 (trezentos mil) ienes.

- 2) Remessa bancária (na conta bancária abaixo)

Banco	Mizuho Ginko Agência Hongô
ContaNo	Conta Comum 2789045
Titular	Zaidan Hojin Asia Gakusei Bunka Kyokai
Endereo	Tokyo-to,Bunkyo-ku, Hon Komagome2-12-13
Telefone	03-3946-4121

•Anotar sempre nome e endereço

- 3) Pelo vale postal

Nº da conta: 00150-0-56754

Titular: Zaidan Hojin Asia Gakusei Bunka Kyokai

Obs. 01 A autorização para construção da escola é exigida para assegurar a robustez do empreendimento, 100.000.000 de ienes para construção e 50.000.000 de ienes para giro. O recurso será destinado para este último.

Informações: Zaidan Hojin Asia Gakusei Bunka Kyokai

Secretaria da Comissão Comemorativa do Cinquentenário

〒 113-8642 Tokyo-to, Bunkyo-ku, Hon Komagome, 2-12-13

Tel.+81-3-3946-4121

(Das 09:00h às 17:00h exceto sábados domingos e feriados)

Fax: +81-3-3946-7566

e-mail: asca50com@abk.or.jp

小木曾友 5/7 水馬愛子様メール拝受しました。いろいろありがとうございます。同友会の絆の有り難さを身にしみて感じます。先日、韓国の韓英鳩さんから、募金へ一層の協力を惜しまない旨のお電話を頂きました。昨日(5月6日)は、日本語学校新入生の入学式がありました。4月の予定でしたが、地震(特に原発の事故)の影響で東京にも放射能が降るかも知れないとの恐れから、在学生の帰国や新入生のキャンセル増える心配があったので、1ヶ月延ばしていたものですが、幸い日本政府の必死の努力で事故の拡大を防ぎ、東京を中心とした関東地方の放射線量は震災前に完全にに戻り、一時あった水道水の摂取制限や野菜の出荷制限なども解除され、日常生活は心配なくなりました。そういうことが、アジアの国々にも伝われ、約210名(280人予定のところ)の学生が戻ってきてくれました。一時は、学生数がほとんどゼロになるのでは、と覚悟までしましたが、本当に奇跡に近いことが起こりました。これも日本とABKへの信頼の賜物と、改めて感謝している次第です。もちろん、今後の留学生の来日(そしてABKへの入学)がどうなるか、予測はつきませんが、(今までより減少するのは確実と思いますが)、アジアの人々のABKへの信頼にこたえるため、ABKの存続に不可欠な日本語学校の校舎の建て替えは、規模を縮小してでも、何とか実現したいと考えています。そういうわけで、同窓生募金には今後一層の力を注ぐつもりです。何卒よろしくお願いいたします。山内さんにもよろしくお伝えください。

5/13 ディナートークショウについてのメールありがとうございました。大震災後の日本救援に燃えているタイにおいて、ABKの

ことも忘れずに考えていて下さっていて、本当にありがたいことです。震災後の厳しい状況の中、ABK日本語学校新校舎の建設は、多少の計画の変更は伴うことになると思います。が実現にむけて協会の総力を結集し、同窓生募金は、5千万円目標達成のため邁進することになりはなりません。これから何卒よろしくお願い申し上げます。ABK-AOTS同窓会、TPA、TNI、柳瀬グループなど、関係者全ての皆様にくれぐれもよろしくお伝えください。

計宇生(中国、在日) 5/26 たいへん遅くなってすみません。少しでもお役にたてればうれしいです。

Cultural Night: One Night at Asia Bunka Kaikan, hosted by Dosokai Association will be on June 19, 2011. We'll keep you update. Take care,

aiko mizuma tachibana (ブラジル) 5/30

お元気ですか。息子が御世話になっています。わたくし今広島です。2週間の滞在をしています。本日、新会館建設のためみずほ銀行宛て水馬愛子名義で振り込みさせていただきました。別にブラジルのIshiharaさんから頼まれたご寄付も振り込みました。住所を書く欄がなかったのでメールします。Iahiharaさんは主人の橘Gilberto浩士郎と一緒にの時期の確かどこかの県の県費留学生でした。ABKには直接関係なくABKにはたまに遊びに来たことがあるくらいですが、ブラジルに帰ってから長くGilbertoと一緒に仕事をしていた関係で 寄付を申し出てくれました。ではよろしく確認ねがいます。来週の6日は関空からブラジルに帰ります。

ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人です。財源に限りがあり、皆様方から送っていただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

協会のあらまし

名 称：財団法人アジア学生文化協会
 ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION
 (ASCA)
 所在地：東京都文京区本駒込2丁目12番地13号
 代表者：理事長 小本 曾 友
 設 立：1957年（昭和32年）9月18日
 故郷穂五一氏創設

目 的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的和合と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

◆主な事業◆

- (1) 留学生宿舎の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営（進学希望者向けの日本語を中心とする教育）
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(社)日・タイ経済協力協会、ABK留学生友の会との連携・協力

◆会費（年額）◆

正会員 1口 1万円
 賛助会員 1口 5万円
 特別会員 1口 10万円
 会員には広報紙「アジアの友」が無料配布されます。また、広報紙購入だけを希望される方には、購読料年間3千円（学生2千円）でお送りしています。

本誌で広告してみませんか。

団体・企業を問わず、編集部へご相談ください。

書籍のご紹介



「マリアさん こんにちは」

著者：奥山 義夫 発行：(株)新聞編集センター
 本書は ABK 及び ABK 留学生友の会の会員であり、ボランティア日本語クラブの先生や留学生のホストファミリーをされるなど、ABK に対して広く・深くご協力をいただいている奥山さんの異文化交友録です。友人を訪ねての海外見聞、アジア文化会館での留学生交友・・・自然体で片意地張らない奥山さんの姿と、そこに触れた留学生たちのコメントには、真の国際交流とは何かを知るための、たくさんのヒントが隠されています。(1050 円)

★本書ご購入ご希望の方は奥山さんまで
 194-0045 東京都町田市南成瀬 1-17-14
 ☎ 042-722-8811

後 記

ホエ先生は年に1～2回ベトナム留学生とともに来日する。その折、ABKで毎回懇談会を持つ。何時お日に掛かっても先生の進る情熱には圧倒される。1991年ホエ先生は長年の志の実現のためドンズー(東遊)日本語学校を創設した。一室からのスタートだ。今年、その学校が20年を迎えた。3人から始まったドンズー日本語学校からの日本への留学生派遣はこの20年間で1124人になる。個人の力で、ベトナムの貧しい優秀な学生を海外へ留学させる道筋をつくるのは並大抵の苦勞でない。しかし、ホエ先生の国造りの為の人づくりに対する筋金入りの情熱と行動力に多くの日本人が動かされ、たくさんの方々様々な協力を得て今日に至る。この度来日したホエ先生にご自身の日本留学からドンズー日本語学校設立までの道程を伺った。先生の夢はまだまだ終わらない、先は大学建設まで繋がっている。(F)
 大震災後の大変な時期に、ほぼ予定通りの新入学日本語生を連れて来日した台湾の代理店ウエイウエイの李さんに、大震災後に直面したご苦労話を伺った。彼女も留学生をお世話することを天職として仕事に当たられている。(F)

アジアの友 2011年6・7月号

2011年6月20日発行(通刊第491号)

年間購読(送料共)3,000円(学生2,000円) 1部 500円(税込)

発行人 小本 曾 友
 編集者 アジアの友編集部
 発行所 財団法人 アジア学生文化協会
 東京都文京区本駒込2-12-13 (☎113-8642)
 電話番号：03-3946-7565/4121 ファクシミリ：03-3946-7599
 振替口座：00150-0-56754 E-mail: tomo@abk.or.jp
 ホームページ: (http://www.abk.or.jp/)
 published by ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION
 (ASIA BUNKA KAIKAN)
 2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN
 ☎+81-3-3946-7565/4121 ☎+81-3-3946-7599
 Email: tomo@abk.or.jp
 Home Page: http://www.abk.or.jp/

「アジアの友」の購読会員(年3,000円・学生2,000)にご入会下さい。振替用紙又は電話等にて。

「ABK 同窓生募金」へのご協力のお願い

(財) アジア学生文化協会では、現在、下記の通り、「ABK 同窓生募金」を行っています。これまで長年にわたって ABK と縁を結んだ方々皆様 (留学生 OB・OGをはじめ、日本人関係者) にご協力をお願いしています。なお、ご寄付して下さった方々は、そのお名前を、金額の多寡にかかわらず、記念銘板に刻印し、長く保存させていただく考えております。また、高額寄付者への顕彰を別途用意いたします。世界的な不況の折、誠に心苦しい限りですが、何卒、ご理解とご協力を下さいますようお願い申し上げます。

財団法人アジア学生文化協会 (ASCA)
理事長 小木曾 友

募金内容

- | | |
|---------|--|
| 1. 名 称 | 同窓生募金 |
| 2. 目標額 | 50,000,000 円 (伍千万円也) |
| 3. 寄付金額 | 一口 10,000 円 <一口未満でもお受けします。但し、一口未満の時は 1000 円以上をお願いします> |
| 4. 使 途 | ABK が設立する学校法人の「運営資金」に当てる (注)
(注) 学校設立には、校舎建設資金 (約 5 億円) のほかに、教育の健全性を保証するために「運営資金」 (約 5,000 万円) を所有することが必要です。募金はそのためのものとします。 |
| 5. 募金対象 | ABK と兄弟寮に居住したことのある各国 (在日を含む) 留学生・技術研修生・日本人学生の OB/OG (約 1,000 人)、ABK 日本語コースの卒業生 (約 4,000 人)、及び ASCA の日本人職員・会員等 (約 1,000 人)、並びに本募金趣旨に賛同されるすべての皆様 |
| 6. 期 間 | 2010 年 4 月 1 日から 2 年間 |
| 7. 送金方法 | 次の 1)、2)、3) のいずれかの方法で、ご送金下さい。 |

1) クレジットカード決済による送金 (下記ウェブサイトで手続きできます)

寄付のお申し込み <http://www.abk.or.jp/abkd/fund/fund.html>

*セキュリティ上の必要から、1 回の送金は上限 300,000 円 (参拾万円也) をお願いします。

2) 銀行振込みによる送金 (下記銀行口座にお振り込み下さい)

銀 行 名	みずほ銀行 本郷支店
口座番号	普通預金 NO.2789045
口座名義	財団法人 アジア学生文化協会
住 所	東京都文京区本駒込 2-12-13 ☎ 03-3946-4121

3) 郵便振替による送金

郵便振替口座	00150-0-56754
加入者名	財団法人 アジア学生文化協会

* 振替用紙は『アジアの友』に挟み込まれています

お問合せ先: (財) アジア学生文化協会 50 周年記念事業委員会事務局

〒113-8642 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館

Tel.+81-3-3946-4121 Fax.+81-3-3946-7566 E-mail: asca50com@abk.or.jp